

神戸空港のラグーンで実施したウミガメ保護についての報告

NPO 法人 日本ウミガメ協議会

2008年6月から12月にかけて、神戸空港島にある人工海水池（ラグーン）で実施した、アカウミガメの保護活動について報告します。

1 本活動の目的

(1) 危険な海域での事故死を防ぐ

大阪湾や瀬戸内海は船舶の航行が多い上、チリメン漁など漁業活動が活発です。そのような危険な海域である大阪湾や播磨灘にウミガメが入り込むと、高い頻度で事故に遭遇し、死亡する確率が高いことが明らかになってきました。例えば、2006年に日本ウミガメ協議会は大阪湾と播磨灘で16個体のウミガメを確認していますが、その内、8個体は既に死亡しており、なかには体表にキズがついているものもありました。一方、当会では2003年と2004年に明石や小豆島からウミガメを放流し、人工衛星で追跡していますが、無事に紀伊水道から太平洋に出たことを確認できたのは4個体中1個体しかありませんでした。以上の事実より、大阪湾や播磨灘に入り込んだウミガメは、安全な場所に確保するのが人道的な処置と考えました。



神戸港沖で発見された死亡したアカウミガメ

(2) 捕まったウミガメの健康を確認して放流する

全国各地で漁師さんの網などにウミガメがかかり、收容されることがあります。そのようなウミガメは調査研究の大切なデータを提供してくれるので、当会では極力調査に出かけ、標識を装着し放流してきました。その中には健康状態に問題があり、放流するのが心配されるウミガメもいます。そこで一時的にラグーンへ確保し、健康状態を確認した上で

外洋に放流しようと考えました。

(3) 市民にウミガメのおかれた現状を理解していただく

神戸のような都市に生活していると、大自然を忘れがちです。神戸空港の広いラグーンでウミガメを探してもらい、少しでも自然に近い状態のウミガメを観察し、ウミガメに親しみを感じていただきたいと思います。



人工海水池で息継ぎをするアカウミガメ

2 これまでの経緯

(1) 市民からの意見を聞く会の開催

前述したとおり、当会で得られた様々な情報から、大阪湾や播磨灘に侵入したウミガメは事故死する確率が高いことが予想されました。しかし、野生動物を一時的でも拘束することに対する批判も当然予想されました。そこで、市民の方々の意見をきくための会議（リバイブウミガメ戦略会議）を神戸市（2007年2月10日）と淡路島由良（2008年5月27日）で開催しました。その結果、この活動に対する賛同者が多いことを確認しました。2007年は7月より神戸空港の人工海水池に順次アカウミガメを運び込み、6頭を保護することができました。2007年の事業結果を2008年5月30日に神戸市にて報告し、6月26日より2008年度のプロジェクトが始動しました。

(2) 神戸空港人工海水池の利点

本プロジェクトで保護するウミガメは、大阪湾を自ら出て行く季節に、外洋へ向けて放流する予定になっています。そこで、保護する施設は人に飼育慣らされることなく、自由に泳ぎ回れる広さがあり、餌となる生物が自然に生息している環境であることが望まれました。その点、神戸空港の人工海水池は海水面面積が 1.6ha あり、満潮時には海水の交換も行われるため、ウミガメの一時保護を行う上では非常に適しています。



神戸空港人工海水池

3 2008年度の結果

(1) ウミガメの収容

2008年に神戸空港で保護したウミガメは以下の4個体です。

名前 標識 種 捕獲日 収容日	悠(A) ♀				ナミオ(B) ♂			
	62497, 62498, 59510, 59511				62505, 62506, 59518, 59519			
	アカウミガメ				アカウミガメ			
	2008/6/25				2008/6/26			
	2008/6/26				2008/8/23			
	SCL(cm)	SCW(cm)	Bw(kg)	体温	SCL(cm)	SCW(cm)	Bw(kg)	体温
2008/6/25	73.7	59.7	61.6					
2008/8/8	73.8	58.9	68.9					
2008/8/13					75.9	65.8	63.0	
2008/8/19					-	-		
2008/9/20	74.2	58.9	62.7		76.8	65.9	61	
2008/9/25					-	-		
2008/11/16	74	58.9	67.9	24.1	766	662	65	23.7
2008/12/13	74.1	58.4	66.5	24.1	75.7	65.3	64.7	23.7
名前 標識 種 捕獲日 収容日	元気(C) ♂				空(D)			
	62810, 62811, 65553, 65554				53367, 53366, 5913, 5914			
	アカウミガメ				アカウミガメ			
	2008/8/19				2008/9/25			
	2008/8/23				2008/9/25			
	SCL(cm)	SCW(cm)	Bw(kg)	体温	SCL(cm)	SCW(cm)	Bw(kg)	体温
2008/6/25								
2008/8/8								
2008/8/13								
2008/8/19	76.1	69.1	60.0					
2008/9/20	76.4	59.6	54					
2008/9/25	-	-			72.1	56.3	57.8	
2008/11/16	760	606	60.5	23.4	718	565	53.6	24.1
2008/12/13	75.9	59.8	58.9	23.4	72	56.5	52.4	24.1

なお、悠 (A) は両前肢の約半分を失っており、両前肢の断面は切断後間もない状態であり、腹部や四肢の基部にも切られたような傷が見られたことから、サメに襲われてまもなく保護されたと考えられました。ナミオ (B) は左前肢の動きが悪く、元気 (C) は左後肢が欠損していました。この4個体は花田さん (悠)、永田樹香さん (ナミオ)、五百蔵あきらくん・長谷川千純さん・多井幹博くん (元気)、中谷知里さん (空) に名前を付けていただきました。また、2000年に明石市で生まれ、須磨海浜水族園で飼育されていたアカウミガメ3個体を自然に戻す事前訓練のため、人工海水池に10月24日から11月16日までの間放流しました。

(2) 観察会を兼ねた健康診断の実施

ウミガメを収容した後、カメをダイバーによって取り上げて8月8日、9月20日、11月16日、12月13日 (放流日) に健康状態を調べました。調査項目は甲長や体重を測定し、

血液を採取して血糖値など 31 項目を測定しました。また、取り上げた際には、8/8 を除いて市民に公開し、講習会などを実施し、11 月 16 日はテクノオーシャン・ユース 2008 からの参加もありました。また、一般市民が自由にアカウミガメの観察ができるよう、土日祝日は監視員を配置し、6 月 28 日から 12 月 13 日まで 48 日間人工海水池を一般に開放しました。



アカウミガメに付いた海藻を落とす参加者

(3) 保護中の管理と健康状態

ラグーンで保護している間、餌を与えませんでした。これは、ウミガメがヒトに慣れてしまい、放流後に自然の餌を食べなくなったり、ヒトに近づいてしまうことを防ぐためです。ラグーンは外海とつながっているため、貝やカニ、魚が育っており、それらが餌となることを期待していましたが、実際、それらを食べた痕跡も確認できました。また、保護期間中の体重に増減が見られたものの、正常な範囲内であり、健康状態には問題がないと判断しました。また、左前肢の動きが悪かったナミオと左後肢の欠損した元気は、観察により、その行動から自然界で生きるのに支障はないと判断し、放流しました。しかし、両前肢を欠損していた悠は、他の個体に比べて遊泳速度で 59%、ひとかきで進む距離で 51% の遊泳能力しか無いことがわかりました。このような状態で放流してもいいものか悩んだ結果、義足のように義鱗をつけることを念頭に、放流せず、飼育を続けていくこととしました。そして、人工海水池の水温が下がる冬の間、悠は徳島県美波町の日和佐うみがめ博物館カレッタにて飼育していただくこととなりました。



両前肢をサメに噛み切られたアカウミガメ（悠）

（４） 放流

これまでの経験から、水温が19度以下にならないと外洋に放流しても大阪湾に戻って来ると考えられたため、水温が下がるのを待ち、12月13日に紀伊水道で放流を行いました。この日のラグーンの水温は15.3度で、アカウミガメの生息する温度よりもやや低い水温となりました。また、周囲の大阪湾の水温も18-19度で、生息するにはやや低い水温でした。放流場所は和歌山県友ヶ島沖約3kmの地点（東経135度01分48.29秒、北緯34度05分26.57秒）で、水温は20度ほどでした。放流地点までは国土交通省・堺市の丸鷹渡船のご協力により、2隻の船で搬送し、14時に放流しました。



アカウミガメ放流の様子

本活動は神戸市、国土交通省 近畿地方整備局 神戸港湾事務所、丸鷹渡船、(財)大阪湾
バイエリア開発推進機構、カネテツデリカフーズ(株)や多くの神戸市民の方より支援を
受けておこなっております。今後も、この活動を継続していくために、さらに多くの方々
のご支援をお願いいたします。